資料６

認知症初期集中支援チームについて（報告）

１．目的

認知症については、本人、家族が認知症に気づいていない、本人、家族が医療機関に行きたがらない・行けない等が多い。このような課題に対応するため、認知症が疑われる人や認知症医療につながらない人に、家庭訪問等による支援を早期に集中的に提供することで適切な医療やケアにつなぎ、認知症の人の支援を行う。本年度４月より試行的に実施

２．チーム員活動

保健師・看護師の医療職、社会福祉士・介護福祉士の介護・福祉職がチーム員となり、認知症専門医やサポート医の指導の下、認知症が疑われる人や認知症の人、及びその家族を家庭訪問します。

チームは、認知症状の観察・評価や、家族支援などの初期の支援を、包括的、集中的（おおむね６か月間）に行います。また、かかりつけ医師等と連携しつつ、自立生活のサポートを行い、適切な医療やケアにつなげます。

３．チームの設置状況

設置場所：社会福祉協議会地域包括支援センター、医師会地域包括支援センターの２か所

チーム員：精神科医師、内科医師（サポート医）、保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士

４．活動状況（平成28年９月30日時点）

・総対象件数（４月～９月末）：１３件

うち９月末対象件数：１２件（社協包括６件、医師会包括６件）

うち支援終了件数：１件

・延べ訪問件数：６５件

・チーム員会議：３回開催（医師参加のもと、ケース毎に観察・評価内容を確認し、モニタリングを行い、支援方針を検討）

・情報提供元：親族、認知症総合相談窓口、サービス事業所、民生委員、ほっと等

５．チーム員の感想

・内科と精神科の専門医の意見を確認したうえで支援方針が立てられる。かかりつけ医から専門医への連携がスムーズになった。チーム員の能力向上にもつながっている。

・ひとり暮らしの方が、思ったより少なかった。

・チーム員は、より多くの職種で構成した方が多様な視点からの意見交換ができる。

６．今後の取組み

平成29年度４月からの本格活動に向け、これまでの活動状況から見えた、課題、問題点を整理し、チーム活動がより効果的となるよう見直しを進めてまいります。